

# 市の家計簿

市民の皆さんからの税金等が昨年度どのように使われたか、令和3年度決算報告、令和3年度決算より算定した健全化判断比率、令和4年度上半期業務状況（企業会計）、職員の給与と定員状況を掲載します。

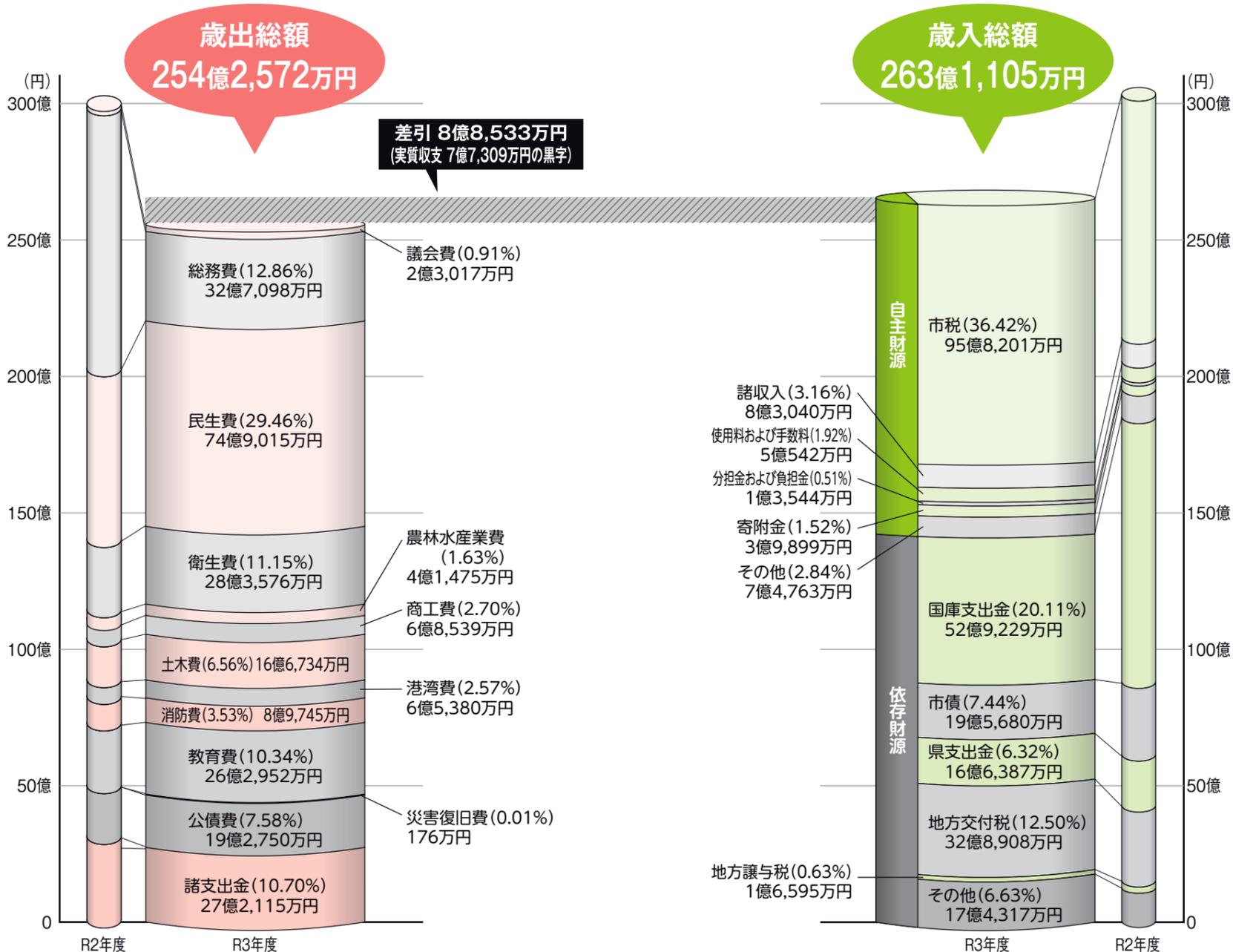
## 令和3年度決算報告

### 一般会計

#### 新型コロナウイルス感染症対策に重点

市税を主な財源として、学校、道路などの建設・整備をはじめ、福祉、消防、教育など市の行政運営の基本的な経費を計上した会計です。令和3年度決算については、市税や地方交付税が増加し、子育て世帯への臨時特別給付金費や新型コロナウイルスワクチン接種事業などの事業費は増加したものの、令和2年度に実施した特別定額給付金給付事業が完了したことにより、歳入・歳出とも前年度に比べ大幅な減少となっております。

令和3年度の歳入は263億1,105万円、歳出は254億2,572万円、差し引き8億8,533万円となり、中には翌年度へ繰り越した事業の財源1億1,224万円が含まれていることから、実質収支は7億7,309万円の黒字決算となっております。



令和3年度中に  
市民1人あたりに使われた金額  
(人口51,085人(令和4年4月1日現在)で算出)

**497,714円** (576,985円)

費目ごとに見てみると...

総務費 64,030円 (185,949円)

民生費 146,621円 (123,003円)

衛生費 55,511円 (48,171円)

土木費 32,639円 (28,965円)

教育費 51,473円 (45,221円)

公債費 37,731円 (37,006円)

その他 (諸支出金、消防費、商工費など) 109,709円 (108,670円)

○内の矢印は令和2年度決算と比較した増減を表しています。  
( )内の数字は令和2年度決算。

#### 用語解説

##### 歳入

**自主財源** 市町村が自らの手で徴収または収納できる財源

**依存財源** 国や県から交付されたり割り当てられるものなど

**市税** 市民税、固定資産税、軽自動車税など

**使用料および手数料** 施設やサービスの提供で得るお金

**分担金および負担金** 保育所や施設入居者の負担金など

**寄附金** ふるさと返出応援寄附金など

**その他(自主財源)** 財産収入、繰入金、繰越金

**市債** 道路や学校などを整備するために借り入れたお金

**国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税** 国や県から交付されるお金

**その他(依存財源)** 利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、交通安全対策特別交付金、地方特例交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、環境性能割交付金、法人事業税交付金

##### 歳出

**議会費** 議会の運営など

**総務費** 総務、企画、財務、国際交流など

**民生費** 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉など

**衛生費** 検診、予防接種、環境保全、墓地整備など

**農林水産業費** 農業、水産業の振興

**商工費** 商工業、観光振興、消費者や労働者の対策など

**土木費** 道路や公園、住宅の整備など

**港湾費** 港湾や漁港施設などの建設、維持管理

**消防費** 消火、救急活動、防災対策など

**教育費** 学校、公民館、図書館等、教育施設の維持、整備など

**災害復旧費** 災害の復旧に要する経費

**公債費** 施設整備などの借入金の返済

**諸支出金** 過年度支出、特別会計繰出金など

本市におきましては、今後も行政改革を積極的に推進し、限られた財源の中で「最少の経費で最大の効果」があげられるよう効率的な市政運営を進めていきます。



# 特別会計

特定の歳入をもって特定の事業を行う場合など、他の会計と区分して経理する必要がある場合に、法律や条例に基づいて設置しているものです。令和3年度の8の特別会計の決算状況は、次のとおりです。

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	61億6,680万円	59億9,416万円
与島診療所	595万円	595万円
港湾整備事業	1億4,207万円	1,124万円
王越診療所	1,099万円	1,099万円
坂出駅北口地下駐車場事業	6,169万円	6,169万円
介護保険	59億3,970万円	58億1,710万円
介護保険介護予防支援	5,904万円	5,904万円
後期高齢者医療	9億8,512万円	9億8,376万円

# 企業会計

民間の会社のように、その事業の収入で支出をまかなう独立採算事業で本市では下水道事業と病院事業があります。

## 下水道事業

令和3年度は、久米町二丁目、旭町二丁目などで下水道布設工事を行い、処理区域面積の拡大を図りました。令和3年度の業務実績は、処理区域面積342.75ha（前年度比2.24%増）、水洗化人口11,219人（前年度比1.42%増）、有収水量2,021,567m<sup>3</sup>（前年度比2.86%減）となりました。また、事業収支の状況は、営業収益が4億3,149万円、営業費用が7億6,091万円、これに営業外収支などを加えると、収支0円となっています。

## 病院事業

令和3年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症に対して関係機関と連携を図り、中讃地域において中心的役割を担い、公立病院としての使命を果たすべく病院運営を行いました。また、医療機能、患者サービス、入院環境の充実を図るため、血液浄化装置などの医療機器の更新や購入、オンライン資格確認システムの導入、入院病棟へのWi-Fi環境の整備、HCU病床の増床などを行いました。令和3年度の業務実績は、入院患者50,656人、外来患者129,968人で、入院患者は前年度に比べて451人減、外来患者は1,834人増となりました。また、事業収支の状況は、医業収益が55億9,831万円（5.0%増）、医業費用が62億4,329万（9.0%増）で、これに医業外収支などを加えると、2億9,784万円の純利益となりました。

### 貸借対照表 (令和4年3月31日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	142億3,122万円	固定負債	66億8,790万円
流動資産	1億5,615万円	流動負債	5億9,917万円
		繰延収益	55億1,191万円
		資本金	14億1,531万円
		資本剰余金	1億7,308万円
合計	143億8,737万円	合計	143億8,737万円

### 損益計算書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

費用の部		収益の部	
営業費用	7億6,091万円	営業収益	4億3,149万円
営業外費用	8,826万円	営業外収益	4億1,775万円
特別損失	10万円	特別利益	3万円
当年度純利益	0万円		
合計	8億4,927万円	合計	8億4,927万円

有収水量 2,021,567m<sup>3</sup>

### 貸借対照表 (令和4年3月31日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	57億3,313万円	固定負債	60億6,090万円
流動資産	59億3,692万円	流動負債	9億9,721万円
		繰延収益	12億5,656万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	14億1,526万円
		評価差額等	△7,972万円
合計	116億7,005万円	合計	116億7,005万円

### 損益計算書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

費用の部		収益の部	
医業費用	62億4,329万円	医業収益	55億9,831万円
医業外費用	3億3,246万円	医業外収益	12億7,161万円
特別損失	688万円	特別利益	1,055万円
当年度純利益	2億9,784万円		
合計	68億8,047万円	合計	68億8,047万円

延べ患者数 入院 50,656人 外来 129,968人

## 令和4年度上半期業務状況(企業会計)

### 病院事業

#### 貸借対照表 (令和4年9月30日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	55億3,936万円	固定負債	60億5,561万円
流動資産	61億7,091万円	流動負債	6億8,801万円
		繰延収益	11億3,503万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	19億6,712万円
		評価差額等	△1億5,534万円
合計	117億1,027万円	合計	117億1,027万円

#### 損益計算書 (令和4年4月1日～9月30日)

費用の部		収益の部	
医業費用	30億3,969万円	医業収益	31億5,090万円
医業外費用	1億7,468万円	医業外収益	6億3,615万円
特別損失	2,415万円	特別利益	144万円
当年度純利益	5億4,997万円		
合計	37億8,849万円	合計	37億8,849万円

### 下水道事業

#### 貸借対照表 (令和4年9月30日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	140億3,153万円	固定負債	66億8,790万円
流動資産	7億1,658万円	流動負債	10億6,117万円
		繰延収益	54億1,065万円
		資本金	14億1,531万円
		資本剰余金	1億7,308万円
合計	147億4,811万円	合計	147億4,811万円

#### 損益計算書 (令和4年4月1日～9月30日)

費用の部		収益の部	
営業費用	3億5,146万円	営業収益	2億1,187万円
営業外費用	4,074万円	営業外収益	1億8,033万円
特別損失	0万円	特別利益	0万円
当年度純利益	0万円		
合計	3億9,220万円	合計	3億9,220万円

## Q 坂出市の財政状況は？

～令和3年度決算により算定した健全化判断比率等について～

平成19年6月に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。この法律は、健全化判断比率等の財政指標を設け、その比率に応じて早期（経営）健全化基準（イエローカード）と財政再生基準（レッドカード）が定められています。平成20年度（平成19年度決算）から健全化判断比率等を公表し、平成21年度（平成20年度決算）からは、健全化判断比率等のうちいずれかが基準以上の場合は、財政健全化計画等の策定が義務付けられています。本市の健全化判断比率と資金不足比率は、下表のとおりすべて基準を下回り、本市の財政状況が「健全段階」であることを示す結果となりました。今後とも、行財政改革実施計画を着実に実行し、効率的な財政運営を行ってまいります。

### 健全化判断比率

本市の健全化判断比率は、すべて基準を下回りました。

健全化判断比率	令和3年度決算	早期健全化基準	財政再生基準	用語の説明
実質赤字比率	- (▲5.33)	12.82	20.00	一般会計等の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合（財政運営の深刻度を示す）
連結実質赤字比率	- (▲45.23)	17.82	30.00	全会計の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合（地方公共団体全体としての運営の深刻度を示す）
実質公債費比率	8.5	25.0	35.0	一般会計等の実質的な借入金の返済額の標準的な収入に対する割合（資金繰りの危険度を示す）
将来負担比率	69.9	350.0		一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高の標準的な収入に対する割合（将来負担の程度を示す）

### 資金不足比率

本市の資金不足比率は、全特別会計において、基準を下回りました。

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
病院事業	- (▲94.5)	20.0
下水道事業	- (▲11.0)	
坂出港湾整備事業	- (▲629.2)	

**資金不足比率とは**

各公営企業の資金不足額の事業規模に対する割合で経営状況の深刻度を示します。

※比率が算定されない場合は「-」で表示し、参考に黒字（資金剰余）の比率を「▲」で表示しています。

## Q 坂出市の預貯金と借入金はどのくらい？

～基金と市債～

坂出市の預貯金にあたる基金残高は、令和3年度末現在、58億2,118万円となっています。一方、借入金にあたる市債残高は、令和3年度末現在、370億8,083万円（一般会計244億7,270万円、特別会計1億3,464万円、企業会計124億7,349万円）です。

市民1人あたり 預貯金 11万3,951円  
借入金 72万5,865円

